

kanamoto . カナモトエグザミナー
examiner
株主の皆様ならびに投資家の皆様へ



vol.104

第59期(2023年10月期)第2四半期号

イベントレポート

第5回建設・測量生産性向上展 (CSPI-EXPO2023)に出展しました。

2023年5月24日～26日に、幕張メッセ(千葉市)で開催された第5回建設・測量生産性向上展 (CSPI-EXPO2023) に、当社は連結子会社であるユナイト株式会社および株式会社ソーキと共同出展いたしました。建設DXを実現するための最新技術・サービスが一堂に集結する建設業界最大級の当イベントには、過去最大の402社・2,200ブースが出展、延べ44,000人超の来場があり、当社ブースにも大変多くの方にお立ち寄りいただきました。

当社は屋内外の両会場にブースを出展し、建設現場のDX化やICT施工を進展させる最新製品の展示や動画によるプレゼンテーションを実施。多彩な3D測量機器や3Dマシンコントロール/3Dマシン

ガイダンスシステムを中核として、後付けの安全補助装置、建機の遠隔操縦システムなど、当社グループの“今”に触れていただきました。



ガイダンスシステムを中核として、後付けの安全補助装置、建機の遠隔操縦システムなど、当社グループの“今”に触れていただきました。

主な展示製品

株式会社カナモト

- 3Dマシンガイダンスシステム「Hemisphere Japan GradeMetrix」
- 自動追尾型3Dマシンガイダンス「E三S」
- ICT地盤改良システム
- 建設機械遠隔操縦システム「KanaTouch」
- 3眼カメラ配筋検査システム「写らく」
- 産業用大型ドローン「ALTAX」 など

ユナイト株式会社

- ICT路面切削管理システム「施工履歴」
- 追突防止補助装置「U-Stoppen」
- 切削材積込管理システム
- 3Dモーターグレーダマシンコントロールシステム など

株式会社ソーキ

- 出来形計測システム「3D-SLOPE」
- 施工エリア安全監視システム「スカイウォッチ」
- 杭打管理システム「パイルウォッチ」
- 作業員安全管理システム「お知らせマスター」 など

今回の出展も貴重な対面コミュニケーションの機会となり、当社製品へのご意見・ご質問を多数いただきました。こうした「現場の声」をプロダクト・サービスに反映させるなど、今後もユーザー業務の安全性・生産性向上ならびに建設業界の課題解決に努めてまいります。



オープニングセレモニーのテープカットに臨んだ
当社代表取締役社長の金本哲男(前左列端)



現場のDX化やICT施工を進展させる最新製品を展示した3社共同ブース



業界初オフセットブーム対応型Hemisphere製3Dマシンガイダンスを展示した当社の屋外ブース



当社の屋内ブースに設置した建設機械遠隔操縦システム「KanaTouch」の体験コーナー



切削材積込管理システムなどを展示したユナイトの屋外ブース



U-Stoppenなどを展示したユナイトの屋内ブース



3D計測機器と組み合わせたオリジナルシステム商品を展示したソーキの屋内ブース

第59期第2四半期決算の概況 [2022年11月1日～2023年4月30日]

● 連結経営成績 (累計)

括弧内の数字は、通期は対前期、四半期は対前年同四半期増減率(%)

	売上高 (百万円)	営業利益 (百万円)	経常利益 (百万円)	親会社株主に帰属する 四半期(当期)純利益 (百万円)	1株当たり 四半期(当期)純利益 (円)
第59期第2四半期	97,268 (3.8)	5,327 (△24.9)	5,488 (△26.4)	2,924 (△35.6)	80.23
第58期第2四半期	93,715 (－)	7,098 (△11.9)	7,457 (△13.5)	4,540 (△8.2)	121.54

(注)第58期第1四半期連結会計期間の期首より、「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号 2020年3月31日)等を適用しているため、売上高については当該基準等適用前の第57期第2四半期連結累計期間の実績値に対する増減率は記載しておりません。

● 連結業績予想 (累計)

第59期通期	198,000 (5.3)	14,000 (5.8)	14,100 (2.3)	8,400 (0.7)	230.45
--------	---------------	--------------	--------------	-------------	--------

【経営環境】

当第2四半期連結累計期間におけるわが国経済は、行動制限の緩和により経済活動に再開の動きが見られた一方で、海外経済の不確実性や地政学リスクの高まりなど、依然として注視すべき状況が続いております。

当社グループが関連する建設業界におきましては、公共投資は底堅さを維持し、民間設備投資も緩やかな回復傾向が継続しているものの、建設コストの上昇や半導体の供給不足による機材供給遅れの懸念もあり、引き続き予断を許さない状況で推移いたしました。

このような状況のなか、当社グループでは、中期経営計画「Creative 60」(2020～2024年度)の実現に向け、事業環境の変動に左右されずに収益を上げる確固とした基盤を構築しつつ、資産の一元管理による稼働率の向上や、レンタル単価の適正化に向けた組織体制の整備も進めております。また、建設需要の高まりに対するレンタル用資産の安定供給の課題解決にも努めました。

当第2四半期連結累計期間における当社グループの業績につきましては、売上高は972億68百万円(前年同期比3.8%増)となりました。利益面につきましては、将来を見据えた人財投資に加え、グループ内での吸収合併等による減価償却費や販管費の増加もあり、営業利益は53億27百万円(同24.9%減)、経常利益は54億88百万円(同26.4%減)、また、親会社株主に帰属する四半期純利益は29億24百万円(同35.6%減)となりました。

【セグメント別の業績】

建設関連

主力事業である建設関連におきましては、国内の建設投資は底堅く推移しており、地域差はありますが、建設機械のレンタル需要も堅調さを取り戻しております。都市部の再開発工事や新幹線延伸工事、再生可能エネルギー関連工事の継続に加え、半導体工場建設や安全保障関連工事等、各種大型案件が進行しております。また、当社グループでは、3眼カメラ配筋検査システムを共同で開発するなど、建設現場のDX化や環境負荷低減の実現に向けた技術開発や業務提携を推進いたしました。

中古建機販売につきましては、レンタル用資産の運用期間の延長を進めつつ、適正な資産構成を維持するため、期初計画に基づき売売を進めていることから、売上高は前年同期比32.0%減となりました。

以上の結果、建設関連事業の売上高は882億48百万円(前年同期比3.3%増)、営業利益は45億7百万円(同28.4%減)となりました。

その他

その他の事業につきましては、鉄鋼関連、情報関連、福祉関連ともに好調に推移したことから、売上高は90億19百万円(前年同期比8.7%増)、営業利益は5億64百万円(同0.8%増)となりました。

■ 連結財務諸表

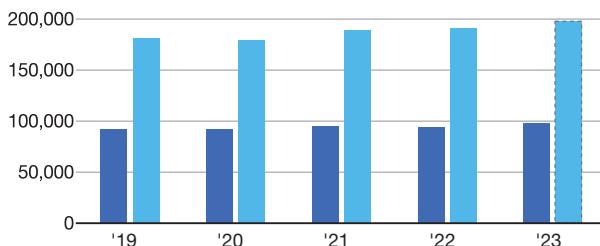
四半期連結損益計算書(第2四半期連結累計期間)

(単位:百万円)	第58期第2四半期 (2021.11.1~2022.4.30)	第59期第2四半期 (2022.11.1~2023.4.30)
① 売上高	93,715	97,268
売上原価	65,697	69,794
売上総利益	28,017	27,473
販売費及び一般管理費	20,919	22,145
② 営業利益	7,098	5,327
営業外収益	569	391
営業外費用	210	230
③ 経常利益	7,457	5,488
特別利益	52	76
特別損失	58	184
税金等調整前四半期純利益	7,450	5,380
法人税、住民税及び事業税	2,093	1,925
法人税等調整額	383	88
四半期純利益	4,973	3,366
非支配株主に帰属する四半期純利益	433	441
④ 親会社株主に帰属する四半期純利益	4,540	2,924

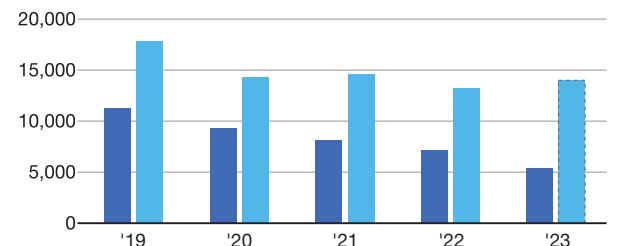
四半期連結包括利益計算書(第2四半期連結累計期間)

(単位:百万円)	第58期第2四半期 (2021.11.1~2022.4.30)	第59期第2四半期 (2022.11.1~2023.4.30)
四半期純利益	4,973	3,366
その他の包括利益		
其他有価証券評価差額金	△ 22	277
繰延ヘッジ損益	△ 0	-
為替換算調整勘定	1,292	△ 549
退職給付に係る調整額	40	3
その他の包括利益合計	1,310	△ 268
四半期包括利益	6,284	3,097
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	5,841	2,649
非支配株主に係る四半期包括利益	442	448

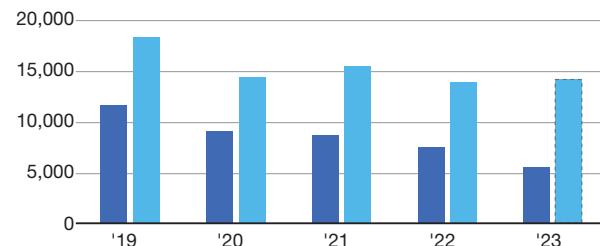
① 売上高



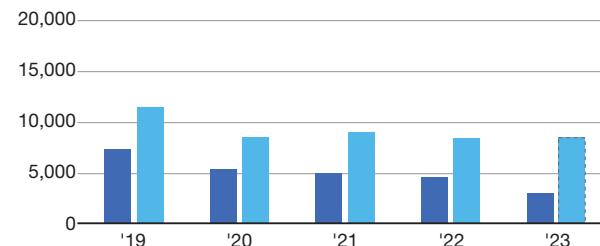
② 営業利益



③ 経常利益



④ 親会社株主に帰属する四半期(当期)純利益



四半期連結貸借対照表

(単位:百万円)	第58期 (2022.10.31)	第59期第2四半期 (2023.4.30)
(資産の部)		
流動資産	118,066	124,371
固定資産	187,253	187,138
有形固定資産	161,728	166,145
無形固定資産	6,717	6,208
投資その他の資産	18,808	14,784
資産合計	305,320	311,509
(負債の部)		
流動負債	82,465	90,371
固定負債	82,242	81,505
負債合計	164,708	171,877
(純資産の部)		
株主資本	127,616	126,670
資本金	17,829	17,829
資本剰余金	19,332	19,438
利益剰余金	94,399	95,307
自己株式	△ 3,945	△ 5,906
その他の包括利益累計額	4,342	4,067
その他有価証券評価差額金	2,181	2,453
為替換算調整勘定	2,198	1,649
退職給付に係る調整累計額	△ 37	△ 35
非支配株主持分	8,652	8,894
純資産合計	140,611	139,632
負債純資産合計	305,320	311,509

四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位:百万円)	第58期第2四半期 (2021.11.1~2022.4.30)	第59期第2四半期 (2022.11.1~2023.4.30)
営業活動によるキャッシュ・フロー	20,913	26,192
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 2,276	△ 2,560
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 18,521	△ 17,234
現金及び現金同等物に係る換算差額	191	△ 79
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	308	6,317
現金及び現金同等物の期首残高	55,557	47,047
新規連結に伴う現金及び現金同等物の増加額	-	731
現金及び現金同等物の四半期末残高	55,866	54,096

とってもいいモノ・読者プレゼント

巻末のアンケートハガキをご返送いただいた方の中から、抽選で100名様にノベルティグッズをお贈りします。

今号は「スプーン&フォークセット」をプレゼントします。会社説明会やイベントなどでも進呈している商品で、株主様や投資家の皆様にご好評いただいている当社オリジナルグッズです。柄の表側にはおなじみのカナモト坊や、裏側にはそれぞれパワーシヨベル（スプーン）とトラック（フォーク）の図柄が入り、“カナモトらしい”デザインとなっています。少し小ぶりのサイズなので、ケーキなどのデザート用やお子さま用としてもお使いいただけます。



ご応募の締め切りは2023年8月4日(金)当日消印有効です。
なお、当選の発表は商品の発送をもって代えさせていただきます。

配当の状況

	年間配当金(円銭)				
	第1四半期	第2四半期	第3四半期	期末	合計
第58期	—	35.00	—	40.00	75.00
第59期	—	35.00	—	—	—
第59期(予想)	—	—	—	40.00	75.00

2Q

2023.2

● 譲渡制限付株式報酬としての自己株式の処分の払込完了について発表

2023.3

● IR 第59期(2023年10月期)第1四半期決算発表

● 4週8休への移行について発表

● 印西営業所(千葉県印西市)を開設 

● 3眼カメラ配筋検査システム「写らく」の製品化、国内建設現場へのレンタル開始について発表

● 自己株式の市場買付および取得終了について発表

● 公益財団法人「カナモト財団」設立について発表

2023.4

● グループ合同入社・新入社員研修を実施(新入社員は80名) 

● 株式会社ニシケン(福岡県久留米市)による第一機械産業株式会社(鹿児島県鹿屋市)の当社連結子会社間の吸収合併について発表

● 女川営業所(宮城県牡鹿郡女川町)が移転

● サンクスフェア in 第一機械産業(霧島)を開催

● 太田営業所(群馬県太田市)を開設 

● 東川機械センター(北海道土川郡東川町)を開設 

● 第53回岩崎一タールソリューションフェア2023に出展(アクセスサポロ) 



3Q

2023.5

● サンクスフェア in 北見を開催 

● 位置情報と高車予約状況、工事進捗を一元管理できるアプリ「位置プラス」のレンタルを開始

● 第5回建設・測量生産性向上展(CSPI-EXPO2023)に出展(幕張メッセ)

● 2023年10月期第2四半期(累計)業績予想の修正について発表

2023.6

● IR 第59期(2023年10月期)第2四半期決算発表、機関投資家向けオンライン説明会を実施 

● サンクスフェア in 函館、第一機械産業(鹿屋)を開催



取扱商品のご紹介

3眼カメラ配筋検査システム 「写らく(しゃらく)」

作業効率の向上による省人化・省力化で、建設現場の働き方改革を支援する3眼カメラ配筋検査システム「写らく」をご紹介します。

当社と清水建設株式会社およびシャープ株式会社との共同で製品化した3眼カメラ配筋検査システム「写らく」。当システムはこれまで人の手でしか行えなかった配筋検査*をデジタル化するために開発されたものです。3つのカメラとシステム制御ソフトで構成され、独自の画像解析アルゴリズムによって短時間で検査結果を表示すると同時に、現場で検査帳票も作成することができます。簡単に持ち運べる軽量仕様のため、一連の検査作業を1人で行えます。また、通信機器やサーバなどを介さずにクラウド上で情報共有することができるのも特徴です。

3社は「写らく」の国内建設現場へのレンタル開始を皮切りに、作業効率の向上による省人化・省力化を通じて、建設現場の働き方改革を支援してまいります。

*鉄筋コンクリート構造物の品質を保證する上で欠かせない品質管理業務のひとつ。多くの人員と時間を必要とするため、同業務の効率化は建設業界の重要な課題となっています。

瞬時に計測・帳票作成が可能!

- 鉄筋径と本数
- 配筋(縦・横)の平均間隔

さらに6種類のデータ作成も可能!

- ロールマーク
- 重ね継手計測
- 2点間距離計測
- 部材カウント
- 鉄筋本数
- 鉄筋組立検査結果一覧



配筋検査中の画面表示



LED照明
装着時

会社概要 (2022年10月31日現在)

商号	株式会社力ナモト (英文: Kanamoto Co., Ltd.)
本社	札幌市中央区大通東3丁目1番地19
営業統括本部	東京都港区芝大門1丁目7番地7
設立	1964 (昭和39) 年10月28日
資本金	178億29百万円 (払込済資本金)
上場取引所	東京証券取引所プライム市場・札幌証券取引所
証券コード	9678
発行済株式総数	38,742千株
連結売上高	1,880億28百万円 (2022年10月期)
連結従業員数	3,832名 (役員、嘱託、臨時社員を除く)

役員 (2023年4月30日現在)

代表取締役会長	金本 寛中	監査役	金本 栄中
代表取締役社長	金本 哲男*		横田 直之
取締役	金本 龍男*		生島 典明
	橋口 和典*		石若 保志
	三野宮 朗*		竹内 巖
	渡部 純*	執行役員	熊谷 浩
	廣瀬 俊*		問谷 悟
	山下 英明*		佐藤 信幸
	内藤 進		中谷 秀樹
	有田 英司		田中 誠一
	米川 元樹		渡辺 光郎
	田端 綾子		小野田 隆司
	大川 哲也		山根 恵司
			伊藤 徹
			藤原 靖仁

(注) 1. *印の取締役は、執行役員を兼任しております。
2. 取締役内藤進氏及び取締役有田英司氏、取締役米川元樹氏、取締役田端綾子氏、取締役大川哲也氏は社外取締役であります。
3. 監査役生島典明氏及び監査役石若保志氏、監査役竹内巖氏は社外監査役であります。

株主メモ

事業年度	11月1日～翌年10月31日
定時株主総会	毎年 1月中
同総会議決権行使株主確定日	毎年 10月31日
中間配当金受領株主確定日	毎年 4月30日
期末配当金受領株主確定日	毎年 10月31日

株主名簿管理人	三菱UFJ信託銀行株式会社
特別口座の口座管理機関	三菱UFJ信託銀行株式会社
同事務取扱場所	三菱UFJ信託銀行株式会社
同郵便物送付先	三菱UFJ信託銀行株式会社
及び電話照会先	

当社公告の掲載につきましては、当社ホームページに掲載いたします。
ホームページのURLは下記のとおりです。

<https://www.kanamoto.co.jp> または <https://www.kanamoto.ne.jp>
なお、やむを得ない事由により、ホームページに公告を掲載することができない場合は、日本経済新聞に掲載いたします。

証券代行部	〒100-8212 東京都千代田区丸の内1丁目4番5号
証券代行部	〒137-8081 新東京郵便局 私書箱第29号 電話 0120-232-711

株式に関する各種お手続きについて

- 株主様の住所変更、配当金の振込みのご指定、単元未満株式の買取請求その他各種お手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関（証券会社等）で承ることとなっております。口座を開設されている証券会社等にお問い合わせください。株主名簿管理人（三菱UFJ信託銀行）ではお取り扱いできませんのでご注意ください。
- 特別口座に記録された株式に関する各種お手続きにつきましては、三菱UFJ信託銀行が口座管理機関となっておりますので、上記特別口座の口座管理機関（三菱UFJ信託銀行）にお問い合わせください。なお、三菱UFJ信託銀行全国各支店にてもお取次ぎいたします。
- 未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本支店でお支払いいたします。

株価チャート (週足)

単位: 円





本誌は、再生紙とベジタブルオイルインキを使用しております。



株式会社 **かなもと**

(証券コード9678)

本社

〒060-0041 札幌市中央区大通東3丁目1番地19

Tel: (011) 209-1600 (大代表)

営業統括本部

〒105-0012 東京都港区芝大門1丁目7番地7

Tel: (03) 5408-5600

<https://www.kanamoto.co.jp>

